

い日が続き、そんな中でも障がい者や高齢者も車いすで外出をする機会が増えてきました。そんな時のためにも簡単に雨に強く、保温機能もあり、ファッション性にも優れていて、安全な防寒着と雨具が欲しいです。1974年に全国社会福祉協議会と厚生省の共催で「社会福祉施設の近代機器展」として大手町の都立産業会館で始まりました。当時は、福祉施設職員の腰痛が問題になっていて、施設の整備の近代化や、就労支援の整備や施設入所者への安全な介護を提供する目的で開催されました。昭和61年（1986年）第13回は、欧米企業の参加を得て、第15回からH.C.R= International Home Care&RehabilitationExhibition（インターナショナル・ホームケア・アンド・リハビリテーション・エキシビション）が使用されたそうです。1995年東京国際見本市会場（通称晴海/晴海貿易センター）に会場を移し、1996年東京ビッグサイトの完成により、現在に至っています。今でこそ障がい者や、高齢者が主役のようにお客様扱いを受けるのが当然ですが、福祉機器展が始まった当時は、その当事者の世話する、親や、施設の職員が客として多かったのではないのでしょうか。そう言うより障がい者や、高齢者のような利用する当事者が来ても、対応に戸惑う業者さんも居て、それに福祉機器も種類が少なかったと思われます。その時代の日本、いや、世界は障がい者も高齢者も、養わなければ生きていけないといったイメージが強いから、そういうような妄想を抱かせたかもしれません。ただ、今は養護学校が特別支援学校となりました。養って保護の護という字が入っている、『養護』よりはいい響きかもしれませんが、ただ、特別支援学校の『特別』というのも、差別用語ではないかと思うのですがどう思いますか？人間は障がい者であろうと、健常者であろうと個人差はあるし、したがってバリア“差別”はある。言い換えれば人間はみんな特別であり、顔や、声がそっくりな人でも、体格や、性格、価値観、弱点、考え方、みんなひとりひとり違う。ただ、過信してそれに気づかない人間ほど、困難に巻き込まれた時自分を見失い、正しい判断が出来なくなるのではないのでしょうか？



この介護ベットは床すれすれまで下げる事が出来ます。



CILたいとう事務局員の高橋さんと会場に行き、それぞれ興味のあるものを見て周りました。